第57回デメンシアカンファレンスを開催

2019年12月18日

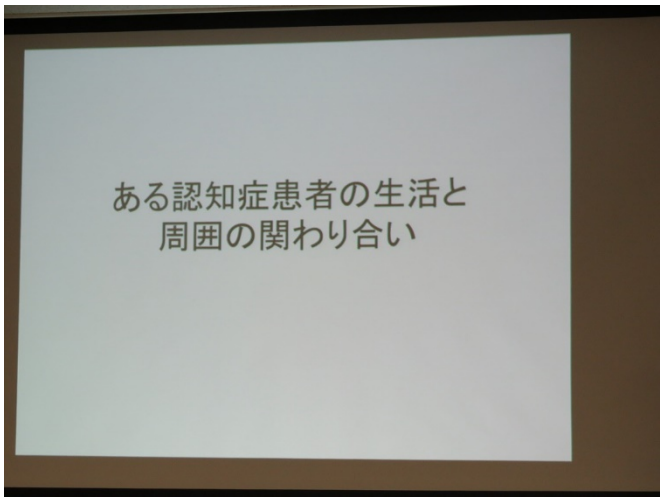
１２月１８日（水）に金沢医科大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）「第５７回デメンシアカンファレンス」を開催しました。

今回のカンファレンスには、金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、国立病院機構医王病院、石川県立高松病院、国立病院機構北陸病院、谷野呉山病院、魚津緑ヶ丘病院、福井県立すこやかシルバー病院の１０施設が参加しました。

「ある認知症患者の生活と周囲の関わり合い」のタイトルで、金沢医科大学からの症例報告で進められ、活発に質疑応答や意見交換が行われました。

症例発表の様子

各会場の様子



症例のスライド

質疑応答の様子

第 57 回　デメンシアカンファレンス　報告要旨

『ある認知症患者の生活と周囲の関わり合い』

発表者：奥野　太寿生（金沢医科大学　高齢医学）
司　会　：入谷　　敦　　（金沢医科大学　高齢医学）

【要　旨】

症例は 81 歳女性。「主訴は同居している２、３人が物を盗っていくことが一番困る」幻覚症状で来院された。既往歴には受診 29 年前に卵巣腫瘍、子宮筋腫、21 年前にＳ状結腸癌、10 年前に癒着性イレウスを受傷された。認知症の家族歴はない。生活歴では独居で飲酒・喫煙歴なし、学歴は 12 年、ミトドリン・ペニシリンに対するアレルギーがあった。身体所見は健常だった。嗅覚低下や聴力低下はなく、運動麻痺や嚥下障害、失語を認めなかった。MYERSON 徴候は陽性だったが、振戦、固縮、仮面様顔貌、小刻み歩行はなかった。採血や心電図では異常を認めなかった。神経心理検査では MMSE：26 点で時の見当識・計算・再生で失点を認めた。GDS：5 点、錯視反応率は 5%であった。頭部 MRI では放線冠部ラクナ梗塞と被殻外側に T2 高信号の線状帯を認めた。しかし、海馬や中脳被蓋の萎縮はなかった。脳血流シンチグラフィーでは前頭葉の血流低下を認め、MIBG 心筋シンチでは早期、後期で描出不良であった。DAT スキャンでは基底核部の分布は保たれていた。Probable DLB と診断し、抑肝散の投与と非薬物的介入を行った。幻視・幻覚は消失しなかったが、周囲との関わり合いが増加したことにより、患者が安心され以前認めていた被害妄想や嫉妬妄想は減少した。独居生活をされている認知症患者の生活把握やフォローは困難であるため、初期から積極的に非薬物的介入を行うことが重要であることを再確認した症例であった。

【質問・意見】

質問：多系統萎縮症の可能性があるとのことだが、他に症状・所見があったのか　。

回答：他の症状や所見を認めず、本症例では DLB の診断基準に当てはめ診断した。

質問：幻視や妄想はどのような経過をたどったのか。

回答：DLB は変動する認知機能が特徴の一つであり、認知機能が悪化している時には幻視や妄想の症状が強くでる。物盗られ妄想等が出現している時もあれば、それが現実的にありえないと判断できる時もある。本症例では周囲との関わり合いの増加により不安やストレスが軽減し被害妄想や嫉妬妄想は減少したと考えた。

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

第57回デメンシアカンファレンス

ある認知症患者の生活と周囲の関わり合い

2019年12月18日（水）　18：30～20：00

担　当　金沢医科大学　高齢医学
対　象　参加施設及びその他の施設の医療関係者（医療系大学の学生含む）
発信元　金沢医科大学基礎研究棟3階　大学院セミナー室

会　場　認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所（〇…参加者受入可）

〇・金沢大学　医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室
〇・富山大学　附属病院2階カンファレンスルーム2
〇・福井大学　附属病院2階キャンサーボード室
〇・金沢医大学　基礎研究棟3階大学院セミナー室
〇・国立病院機構医王病院　外来棟3階小会議室2
・石川県立高松病院　医局会議室
〇・国立病院機構北陸病院　特殊診療棟2階小会議室
・谷野呉山病院　共通棟1階ミーティング室
〇・魚津緑ヶ丘病院　5階会議室
〇・福井県立すこやかシルバー病院　管理棟2階応接室

申し込み不要
・出席される方は、受付で出席簿に氏名等をご記入下さい。
・教育コース履修者の方は、本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。

お問い合わせ
北陸認プロ運営事務局
〒 920-8640　金沢市宝町13番1号
TEL 076-265-2149　／　FAX 076-234-4208
E-mail　ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp　／　URL　http://ninpro.jp/